P-F-4

漢方方剤治療評価についての科学的解釈
(第3報, 冠心二号方について)

嘩小児科内科*, せなが医院**

○広田嘩子*, 瀬長良三郎**

目的：冠心二号方は近代において中国でつくられた処方であり，心筋梗塞や脳梗塞の治療に用いられてきて効果をあげている。丹参，紅花，川芎，赤芍，降香という活血化癥薬で構成された処方である。現在，日本では活血化癥剤のいくつかについて血小板凝集能に対する作用が調べられてきたが，in vivo では抑制効果は認められていない。血液粘度を低下せしめるという報告はあるが，凝固系の阻害に関するものはない。今回，冠心二号方の凝固系に及ぼす影響をみるために，TAT（トロンビン，アンチトロンビンⅢ複合体）を測定した。TATは循環血中の凝固能亢進状態をあらわす示標として有用であり，脳梗塞，心筋梗塞の発症時に高値を示す。冠心二号方のTAT値に及ぼす影響を調べることで，活血化癥剤の作用機序の解明の一助となることを目的とした。

方法：検診のために受診した125例のうち，血漿TATが3.0 MCG/L以上の26例を対象とした。既往歴としては，脳梗塞4例，一過性脳虚血発作2例，狭心症3例，下腿血栓症1例，糖尿病1例，高血圧症6例である。女性16例，男性10例，年齢は58歳から86歳である。

冠心二号方（丹参8g，紅花4g，川芎5g，赤芍5g，降香4g）の水煎液を1日分として，7日間内服させ，8日目に再度TAT値を測定した。Ht，血小板凝集能，血液粘度， α -トコフェロール，Tch，TG，HDL-ch，総脂質についても内服前後で測定，比較した。なお，TATは酵素抗体法（ヘキスト社製，エンザイムキットTAT）によって測定した。

結果：対象の26例中，2例を除いてすべて冠心二号方内服後，TATの値は低下した。服用前のTATの平均値は 15.9 ± 18.0 MCG/Lであり，服用後に 6.0 ± 12.0 MCG/Lで，有意の低下をみた（ $P < 0.05$ ）。Ht，血小板凝集能，血液粘度， α -トコフェロール，Tch，TG，HDL-ch，総脂質については有意な変動はみられなかった。

考察：冠心二号方がTAT値を正常化する作用があることは，凝固亢進状態を改善し，血行動態に有利に作用することが考えられる。ヘパリンにも血漿TATを低下せしめる作用があるという報告があるが，安全性，使いやすさの面からも冠心二号方のほうが有用度が高い。

結論：冠心二号方が心筋梗塞，脳梗塞に有効であることが，凝血学的にいえたと考える。さらに作用機序の解明がすすめば，予防的投与も含めて，臨床に広く用いることができよう。